

講義ユニット名	人体発生学		所属科目名	人体構造学Ⅱ
講義ユニット 責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学	
講義ユニット コーディネーター	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学	
授業方法	講義中心、印刷物配布、スライド投影			
概 要	「GE-03-03 胎児期、新生児期、乳幼児期」 「PS-01 基礎医学」の「PS-01-02 個体の構成と機能」 「PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」 に関連する項目を扱い、以下のことを目指す。 ・成体で見られる構造に発生過程が反映されていることを知り、成体の構造の必然性を理解する。 ・発生過程の変異により、いわゆる先天異常が引き起こされることを知る。			
講義ユニットの 到達目標	GE-03-03-01 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化について理解している PS-01-02-22 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像、胚内体腔の形成過程について概要を理解している PS-01-02-23 体節の形成と分化、咽頭弓・咽頭嚢(鰓弓・鰓嚢)の分化、頭・頸部と顔面・口腔の形成過程について理解している PS-01-02-24 体幹と四肢の骨格と筋、心血管系、泌尿生殖器系各器官の形成過程について理解している PS-01-02-25 消化・呼吸器系各器官の形成過程について理解している PS-01-02-26 神経管の分化と脳、脊髄、視覚器、平衡聴覚器と自律神経系、皮膚の形成過程について理解している PS-02-06-01 循環器系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-5) 体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる PS-02-10-01 生殖器系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-9) 生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる			
講義日程	別途通知する。			
出席の取り扱い	出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。 出席はオンラインフォームの提出および学生証の読み取りにより行う。 講義の出席が3分の2に満たない学生については試験を受けられない。			
評価項目	筆記試験、講義への参加態度			
評価法	筆記試験の結果と講義への参加態度を総合的に評価する。			
予習・復習への アドバイス	[予習] 授業資料は事前に配布されるので、ざっと目を通しておくとよい。 [復習] メモを書き込んだ授業資料を見返すとともに、推奨参考書のいずれかを読んでメモ書きを自分で追加するとよい。			
履修上の注意 アドバイス	人体発生学は三次元的な人体構造が時間軸に沿って形成される過程を学ぶ学問である。つまり『四次元』の事象を学ぶことになる。一方で教科書や図、配布される講義資料は二次元情報である。学習対象と学習資料との間にある二次元分の乖離が人体発生学を難しくしている。講義中にも適宜使用するが、乖離を一次元分に留めるために、人体発生学の学習では動画を活用するとよい。今は様々な動画資料が世の中に満ち溢れている(もちろん、その真偽や著作権については各自で慎重に見定める必要があるが)。なお、動画資料を探す場合、英語のキーワードを使うことで、日本語で探す時の10倍以上の資料や情報を得ることができる。			
推奨参考書	参考書の詳細については講義の中で紹介する。			